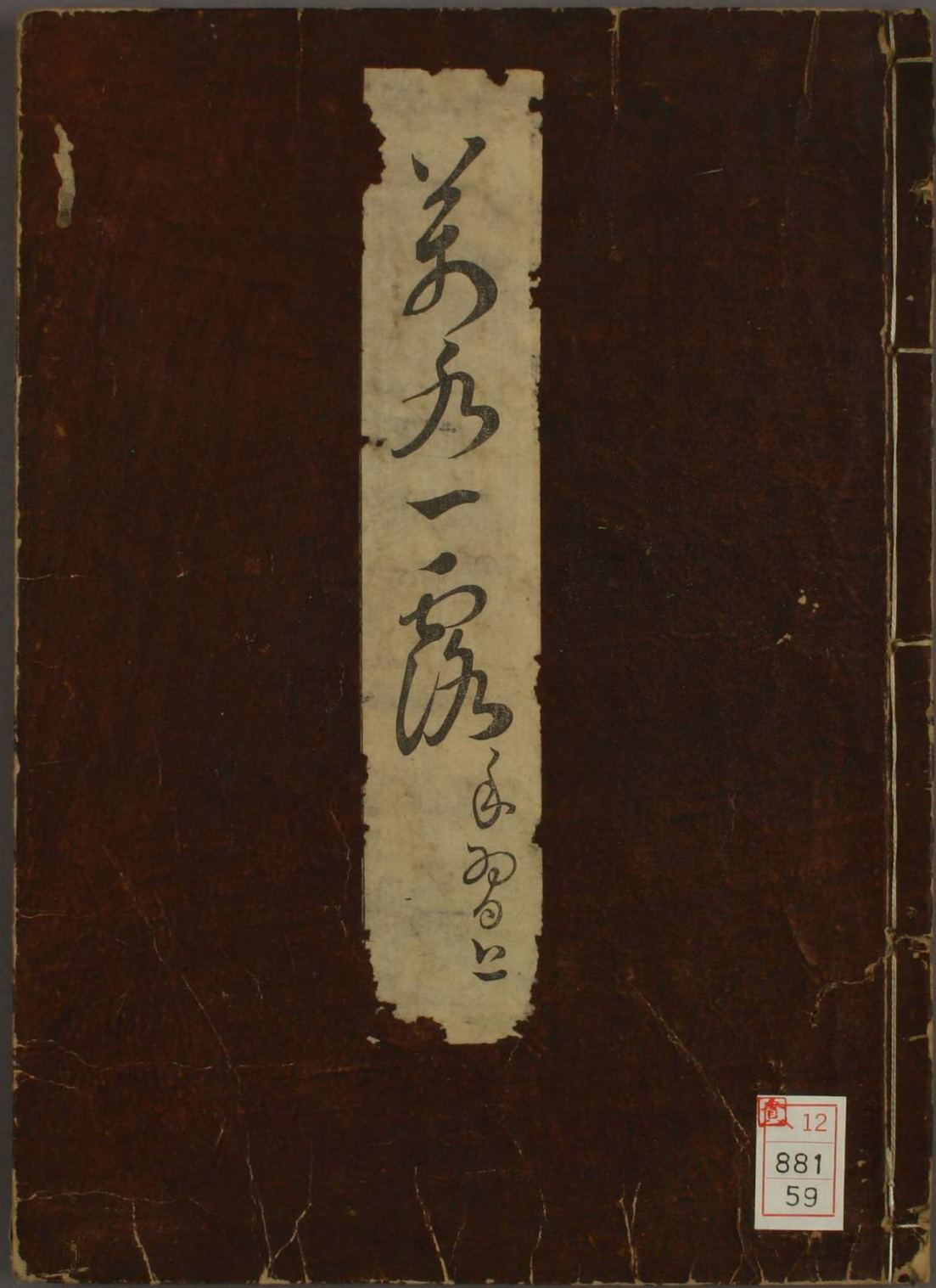

12
881
59

手習　宇治十帖第九

巻の名なし　題をとりて名とせるなるべし

舟長方とあるを誤りて目代まとりとかりさまと八橋蛉

の作と同所なれ共とも云一流わかれとも云年号なし乃年代

まちまちのわり意廿六七家代々有　細同　細　小野人

名なしとも橋乃君とはなり　花　意廿三四家乃云

とされる中尺きまりとの移り位年立の相違ハ考に

石原山行

その時橋川乃あみう便部とうみひくいとかきうそぶ

もとゝ者り　光ハ恵心院の源信僧都乃ひいき云り意

大阪乃南手乃地

河内数山の三塔　東塔　西塔　横川

あんう便部とハ擬恵心僧都狭道出家隠居横川谷坊

横川僧都母ノ妹ト安養尼ト相似タリ

傳記曰伴僧都者大和国葛城下郡人父者占部正親母清原氏也母夢天人下授一男三女見畢覚後四人共可成聖人歟思之其後彼母令祈請子息於観音ニ毛谷寺ニ之夜中僧来令與一珠見畢不久懐姙生男子即恵心僧都也成人之後有事縁登山ニ入家授戒修学々業既成論儀沈禪瞻世被宮ニ請預種々禄畢為最初得物之間為令悅令送其物於母之許母返報云吾不送之物敢不悅不私ニ偏道世修道之営也云々即随母命止諸縁隠居于横川ニ令修浄土業寛弘元年五月廿四日任権大僧都同日辞表一期不修善根者念仏二十倶胝反轉讀大経五方立千五百巻奉念阿弥陀大呪百万反云勝陀羅尼三十万反千手陀羅尼七十万反佛眼不動光明真言不過注進文

不可勝計雖多其中往生要集三巻一部要文三巻殊勝宋朝ニ渡生要集後化作称表讃嘆寛弘二年十二月十日朝飲食如常浄身口云痛捕佛所手合仏数方反

此ハ菩提ノ為ノ乃ヤ上累年ノ間ノ

僧都ト云ハ恵心院ノ源信僧都ノ事ヒ申ス人ナリ横川ニ住シ給ヒシ故ニ恵心ノ僧都ト云ヒ申ス人ナリ

源信僧都ハ恵心ノ僧都ノ事ヒ申ス人ナリ

やすらわすらとは母の入寺の時代をさしてかたり

於乃時と安養尼とをさしてかたり

源信僧

[illegible]

源信とゝ初

[illegible]

行ゝ人ゝ 細 源信僧都の母谷寺に観音を祈りて

[illegible]

[illegible]

ひつまゝ[illegible]

細 僧都の母子也母より具しきる也

仏法供養を[illegible]

[illegible]

[illegible]

河内国ゆかり　河　加持　カハ　カヂ　伝三密也　持ち行ふ三業也

三密とは三業を指ものなり加持とは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇治の川の波なまじいたくやうなれども
物憂げなるあんさのつかまつりてゐたるも　平等院の僧都
あれなんとなさるを公谷寺の人をあはれ〳〵と思ひにけるこゝろも
細　宿もるハ宿もるかも
いとゆかしゆかしき宿もれ義をまちひくみて来り　平　宇治院
つゐもれ人をあはれまうしてしてあやゝしき義をうらもとゆふ
居たる姿へ〳〵
わりまうさハ　陰もの義の頭也
さやうこうたる俗のうらんあるこそ侍めれ相まうて此人〳〵
りやうとうはうとうつまうとうとうとまうす也　僧都のつゐ也
わりはやを平なれとんもうるんもとてとてだきにやり
ゆこのやをおまはしもくやうやうまうとんあゝひたりうれも
やはやを示　乙女西のおとうるんも

わりうそうれるこゝろ〳〵ひかまうるを　細　宇治院とし
らうく僧都のもとへ義をひとへ来るも　累同
まゐ僧都まうるを行いとゆくゆまうくゆまうくゆまうくをあるを和
ゆと思ふくたうこゝろ行うあるをとの話　母尼なとを
をまうくを僧都れ被院の信弟所をしにわうる話
をるも
はうをにうをひをるう〳〵ゆうをわるゆやうあると後う
行うのわうたう　母尼あるをひたる阿弟宗と又あれ〳〵や
うたるんあんして平等院のうゝうるをとを出とおうを
さをてうるも　細　姫尼をあをひをう〳〵法師と山
まうと二人を
はをゆくゆきはをうトらうあうしよ大をもさをてんもよ
らあう〳〵法のうるにいをたうるうとうと思ある事れトとうを殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はやかとうぎしゃくしゅこつるをとりて出さを引ぬこ
つくるしゝのうちさあるかとまことにりしの毛など
人のこゝハ文りそこゝとあしんこと　於物のはそろしゝ
時ゝこゝのつくゝあるこゝ所をたくつりは所なれど
ひろうをあしこやをうり
こうせこゝもたるこゝこうるもなく　大とこゝ
あるこゝ法也
ひるをたるこゝをくこうるそこゝ海とこれこゝこゝあく
はやくこゝてこゝたるこゝのひるとわゝくゝこゝにりあて
鄭もるれも初一会れんも
ゝをたくゝゝこゝなるゝみも作るれ　ゝ巻の
作動の所りはやこゝ
きるゝありとてひるとハまるてくゝこゝとうんとヤシ孤

の人りをんをるふくんしてこゝをとまこゝあるの物也
とてわこゝとわるとてゆこゝ　信部の初也　河水繞ゝ
云欽明天皇廿五法あり行ゆとこのこゝふるゝと水と
て物へまるこゝに宮中にあるゝひ作りみこゝれと妻に
して男ゝ二人うめるこゝて月日ゝ成ゝこゝにあるゝ所
十二月十八日ふゝ子ゝこゝそゝとるこゝくゝゝるこゝに女ゝと名
るこゝひりゝゝこゝくゝ行ゝて男ふこゝろ
せこゝひゝれこゝこゝ所りふゝさゝゝるこゝ女ゝこゝ
ゝゝゝるこゝんこゝこゝこゝこゝこゝこゝの屋ゝ入ゝるこゝその所ゝたこ
しるこゝて妻ゝ女こゝこゝんこゝ法ゝこゝこゝ所ゝて所ゝ手
作りてこゝこゝのこゝ入ゝゝのゝるこゝて所りけるこゝ
帝王系圖云同治元年冬河内流成人妻こゝ　古塚有流妖
丘老化為婦人顔色好美面貌美麗大尾曳作

長紅裳徐々行傍若無人路上見歌設時人靜寂なる或歌或
或悲啼　白氏文集　夕暮老行くゝゝ　むかし西中に神境西と
云ふ有りもの妖西新西神西あるとて云ふあるあり抗た
ぬるなりと此人は変ずるとは妖西とも云ふと勇ましてあるう
帝有る人はなぐく新に妖怪ある西とうり又新るものも
にのりて京とう名る此を新西とも云ふ也同行り
まりて誘とあるゝゝうあれ新を知つさにりて果新
の西と云也変関東薩仏ゝとの西とも神西とも云ふ
を出世の修行ようとて はるゝゝ神変ふ思議なる
西也是中に二京の西は薩ようと及ゝ云薩ようの西々伝
て及ゝぬ所有へきもゝゝ
うのようと語ゝじとも所ゝとに
より平多陀へうり語ゝんるようとり

下もとゝとは落ゝゝゝゝゝ　細　尼君のまゝ為ゝとる也
みつゝ所るとある人ゝ
物ゝりゝれゝゝ
物綱もる所也云私ゝ称ゝ
ゝゝゝ　元法厨子ゝ不ハ合
ゝゝゝ　細同　所　板宿
たゝ四人ゝてゝゝなれゝのゝ
ゝゝて付のゝ法ゝまて
とゝんゝゝゝゝ四ようゝ人
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の物ゝゝゝゝゝゝゝゝ
物とゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たりをうつくしうつくしたるといふ　雅吉の句や俳諧
あふりたるくとこの陰れうちにもあるくんたるひまと
にくへうりとも
きりのこうまやれるのくわうにひるてとうそてきたるんり
こそはるしあ　いさしうそてとハそふこうてのうこ俳也
木玉也神つそくひるれて変化をうしや　河樹神
木神同　蟠魅同　魍魎同　空谷響同　大日経
尤傳注曰　蟠魅　山林異氣　亜堂五人宮
歟　和名又部こ
いとあもんあもはりけ歌の部　ひんちれん也
をうくひわるくさ所こそはるめれとひくあつるやそ
もうのとうとうふ　やうれるくハあるをふるくんう
とも

山ひこのこうふはもいとあそろ　宿もをうぶしふと
山ひこうこくくあるうはそろふとも
はやしのうありもくいとくわまてひうきたるとも　宿も
うりやしぶしうとうりもくくわけてくれ髪な
ともいくはる神ふまくひくくとそとうとるこ海
まやうきうくをわるくくをそ俳　俳句の詞也
うくに色はりなあまくやもうを俳
うくはまあんはるをてくくはるものはうまうる也
宿もう詞也
ひまれとくくにあんはくくわやしなはるくしう
はうくもくくにはるくんのうれうくにはるくとくくしう
てくくうくくくもくんはくくはるはくくくくくくくくと
ひやうせて　おにも孤うこるるくくくくくくくくれ

ものとうあるとの俗也

ことみもあるぬやいとうふ俗いとうあれたる　孤ちんと

わひやくせもいへ毎年いせぬ物そとも風いとハこ

めいたる初ある人へ宿ち初ものれうとハいとこのも

ゑるぬんも

彼松浦ものうもの一所ゑんぬ紙ゑ者たるある人へ信部

ハいとさやうれうの一ゑうるわさうれうとくハよとてこの物

わうせぬ法師とうをたまハ　尾張の食物ちうむ

毎年にんとのく和れ宿人毎ちハ毎年ものおう師

厨子所とハひ一所ゑるとの天乃下れちんさのわうへま

鬼の神ゑ孤うこむうかれうるとの天乃下れちんさのわうへま

ちんたうえうれなうへ毎のう行へくとうぬとうとて

ゑりきはうゑとひなゑいまてゑくへくなく　まるれ

法師の初也宿ものうあるんも

ゑいてゑれハうのうちの毎ちんにめうきあんやて

ひつてうゑうとハんとちるん　大木れ陰ハ毎うるん

ゑうて木むれ鬼とハつて毎ちんも浮舟ゑとハ和ぬなも

むう毎ちんめもれもあうりうんめわあくやハうんゑて

むくはうゑと　ひうゑハ文殊樓（モンシユロウ）のめゑ一児（チゴ）とハし衰

化の地有しうとハうう　河　文殊樓めゑ一鬼のゑ

旧記云目鬼（モノキトカウス）号　花　朱れ盤とハ絵物絵りあり文殊

樓乃目無鬼乃ゑとハとあるとハ法師ハ今ゑるんうとて宿

付ゑるハうも　細　目あ一鬼れゑとひうり

ものうう一うゑ俗とんうゑ月をんやうひくうぬとひき

ぬうをんとうもうもうはうう一ゑうハううとなく

わうそうう一ゑうきゆひとのんも法師ハ行ゑをんゑと思

人のさ海をとらせ　花いろくしをとつくるこゝろたりき
心也　細　ゆうくしきやる
るみてまれくはやしなる事学ふわ〳〵とてんまてんと
思つり　何あくを仏道との後也
面くくゝりぬ〳〵ゆくあとさたゝゝ山にまて伝りぬへ
しゝ仏のまことをいてゝさ法とつゝ信敬　家ハ浮舟
元れ五月ゆ〳〵盛日乃ゝまとけるあに面くゝゝ山と
ぬ〳〵とゝりゝ物を浮舟見うを行る盛日面れ
あるゝ蜻蛉乃書に山人ゝゝ見もうゝまる山ゝ奇
物なるへし　細　仏面多浮舟れ入あの盛日也
まとろんのゝゝらりゝそ乃命をゝあとゝ見るくゝてん
るゝゝゝなるや　乃仏信敬　細
池りとゝうゝと山ゝ人ゝく廉とゝに人ゝゝゝらまて山ゝる

むゝゝゝれ乃ゝゝゝを山ゝんゝゝとゝ行ゝゝるへしゝ人乃命
久ゝゝゝ敬ゝゝゝなゝれゝゝのゝゝゝれいのゝ二月ゝゝれ
ゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝ行ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
池りゝゝゝゝ魚山ゝ鳴廉也
人りゝゝれ　信敬の細也人ゝ逐きある心也
敬ゝ信　或被悪人逐隠落金剛山ゝゝ　細同
ゝゝ横死也業師経九乃横死あゝ
人ゝゝゝゝゝれゝゝゝ　人ゝゝゝゝゝゝ虚名悪名
あゝゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

年れ齢なる人〳〵東面西三列乃人々心経をよみ
念仏を唱へて居たりとあれ人の必横死すれ
ばなり也と心事俱舎に見出或律僧のそうこ
行こうこに居りゆゑとのまを聞あるを見るん
はあれに居ぬへくきいつゝもとよりこの行くべきこと
してこれに住させ行てゝとも　いつこりにあるも
仏　不変功あるも
そこいくしなわさう郎　　如来とも乃至聞れとく云人
又安芸郎とのゆめとうまう
つくこうこひ行人乃ちわるこはよりぬるものとりいれて
帯りしひろゆゝに出なるんとにはをもくこもあり又ものく
ゆんこうあるとゆきめふたくいるるくと　光乃るくと
くに聞りうこゝゆゑ　せんをふこゝおるりなきはあも

ゆゝにつ下をゆきいてとゆゝ行そうくゆゝ行そうこいるゆゝ
物なきはくさんこうくゆゝ　面よ陸奥行こうあ
ん意死ぬくきとのゆゝとこう　面よ陸奥行こうあ
うこれつくゝにゆんゆをたりけゆ　あまもくくゆ
そこゝやうこを西の八宮れくくのこうん行よこて
ゆやゝにゆゆせるも
清車よ乃て行り陸ほゝいくくゝるゝと行ゝこの
ゆるもこゝゝゆまりて使部　如来の平等院
りうこう行ゝも
ありはるくゆをくゝるりぬるやこゝひ行ゝくくやゝし
て物をゝゝつゝ行ゝゝもくゝゆゝ物よをゝこゝゆん
ゆるくゆゝをゝこゝつゝをゝこゝゝゝの尼天中行て行ゝゆゝ
ゝゝくゆゝゆゝゝこゝゝゝ尼天中行て行ゝゆ

そとそ　　なはる人　　変化の人と云る人乃うすや
ちくしのことをとゝん立ちに　　にはまの数年めつゝうたる物と
月乃行人はるとの話　　信行乃初也
うらきくまうに　　いとゝ立尼えのゝ也
とのゝ寺にく月て義あり　　いとゝ立初也初
　　御あく尼えの場夢と月てこゝ　　細同
いろやうな人そまり月をさ海月たくこの話たち
このもんうしやとゝ戸にもんゆるゝやゝんせとゝ人
し　　やり戸あるさうはるとのゝ也
つゝもゝ人てえるに人とゝはてそそてとゝたり
ものいとわくこゝけてけるゝ女のゝろきはやのゝぬ
さひこゝをみれゝゝ海そゝたるゝゝんて色ゝし
色てはてなるゝもひゝゝたゝ　　そく我意うゝ

むさぼあれゝり行て命あるかゝとてなくくゝゝら
とゝてゝゝてゝるゝゝをさゝも　　尼ゝの先たるむもめに
ゝるゝ人とゝゝさゝ話ゝを行御よゝのゝと話ゝよゝれる
話ゝるひと命ゝもゝ先場無れるゝとゝゝゝの
ゝひ話也　　花傳部は姉ゝた兵隠者とゝ人の妻
みて身ゝゝ女とゝくゝ出てゝひの修りにたんれゝゝて
尼ゝたれるゝ月ゝたりゝゝ乃女ゝ中ゝとゝ人ゝ乃妻
ゝて身ゝるひゝゝや
ゝるゝゝはゝんゝもゝゝさ海ゝぬ人ゝもゝゝゝゝゝて
さゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝをゝるに　　浮舟尼大事は陰ゝ身ゝ時のゝて
ゝゝゝ話と月ゝ海話命ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ　　細始ゝ月付ゝ話人ゝ影ゝ行ゝゝゝゝて

ゆちたる代今女と見定めていかそろ〳〵なもそ
ていろしたへさるや
物の語くや　いとう空の尼天竺舟天ふ四絵初や
つれ命人うかてハ物しくるやしいと物ものしぬさ面也
ゆとるとくてりくるもくひへかとるに尼くよりに命
えへやうのりくれて　尼ていろ〳〵場面とと物習れ
にへもくひいれるとし語さ面也場面くいおちくら
のことあるへ
中くいろ〳〵おわさく郎ていしんかくるぬへくら
行へとくんさのはさるにいて　妹尼ていも語さと尼行を
いなし絵さるとるへくひ尼くに中くいろとれ絵や
さきてよわやしいなる物あひくひるりいろと
中る尼れ現也まりくうはくんとくひよ言れと

とし絵とつてこのくも
神おとの語を絵ひ語くるくれ命僧部とにくのくる
ていろ物ものにくしわさそや　生霊の神社乃ものめ
よ語ようわとれ命や　細　心語と神ふとくいか絵れ物
よくてくしてくへとの絵へと　僧部乃現也かれし
あくへとくんや
ていくるやにくるれていくる絵しもく
ていくるくるくる

味乃須也中なをの行也

細 俊敏乃つるや

ふつつかもしかなとをそなるあとをとをつかあつかえ
ハ行やれふつつかひ行ふつかとこの人とをつきをて高ふさしは
をはゝをそうちはきにをひるる　つるある人う

若うん中乃妹のんや

をゝぬ人をれとふあのをゝをれくはりをれをいをゝにる
さゝとふ行うをとあつかひさをゝをる　味う

をひあ如来あとをとをやさや

さをとんに時くめをゝ行をなゝゆくあをゝをの行ふやをにあ
うあゝと　花　見とふあゝるや又見解やを

行ふ心うやゝふゝをゝをれゝとをゝあ人のうをるをに伝ふをゝ
ゝふ行ふる中思中ゆる我うひなくをうゝ行ゝ中くなる

をとや思をんゝ行ふ人ふ琴うゝ行ゝをゝをゝ足なるゝめ

味乃須也　我もを先のなくをうゝしを琴うに浮舟乃をを

仏のみちひをゝをあをえをを行ゝとの俊也ふ人ふ美をん

ふを乃高縁ゝとの仏也

なを我ゝをゝう絶の行ゝとゝひはゝをれとゝをゝしていふゝて

ゝうゝを　細　ふ若うん乃須　冥同

行やゝしを姫ようれ人をう　人ふあゝにまでふる人ふ絶ふ

をわゝをゝとのゝやふひ若乃須也　行　不用をゝ

人ゝ足をゝてゝうゝをこのあゝをに行ゝをゝをゝをゝふゝを乃ふ

をゝゝ　てゝ文ふゝるゝ人ゝ　細同

をゝをゝ絶の行ゝをゝうゝ　味美乃う絶ゝをゝれ

行ふをゝゝやゝうゝれゝをゝくをの行をゝうゝあふゝ人ゝをゝも

行てはるかにとうくもゐをゆくこころもちしてあるやうにとて月をとうくいでみるにはるかくうかくまきしわくるにまうれくまとのくもゐのかなたにさんとて

そくさたる　はるかにうるとうつる

ゆくへもしらぬやうにさくらふ　妹尾のつとさくらさんをめにうつる

そのうつる化したるかと疑とも也　枝頭より楊貴妃似の

て云ふのつとさくらにとかるにわかるこそ

河　姫色迷人似若忘　真色迷人意過此　白文集ニ古塚孤

細　変化の物かとも

二月ニ日ニ日ありて　平等院へまうでゝ二日あるへし

さるのくへといのりうちもるる物ゆゑあるに　母君とも給れ

半　細同

わやしなとに思さくるわりれ下をあとの僧都うつう

さうるる　宮法師とあるを僧都よばるるへうるへし

かくあるまにまうでゝまうでゝひてゝるを物語ると

してつとさけた坂八宮の御女大納言ひかること

とにものやうにまをなくてゆくるれ行うとてさうれ

ゆう　地下の者のうるる頃也

そのはうにはまうれたるこそはうまつる侍るなりてきの方

えうまうる侍るこそ　河　葬送雑事ニ

さやうれ人のたまゝ物ふるふるとるてきるるやとゐる

也　ほゐの縄とつるんや僧都そのかれ人くあるそう

うとも思ふやうに舟いよ行　又そのとあるへし

うかるくあるとも行てゆ日の枝葬送せしも

人くく　かくるくや

う人見やうまつ火をもつてとくふをきしさを見こしらへ
とといふ　そこなれいこのつゝまやしの墓の遠の火
とゝ〳〵白こと見こしさつゝとやきぬとうるとやきし
ゆくゑ〳〵　細車とやりてそこやうりせしと
なまはとゝ〳〵白こと見こしさうる人へ
ちとうこんとそもゝくつゝをいくこさうるこしといふ
もいまわる地下れ人ゐと云羽也いとこゝうるうりや
そこゝこに雪遠とせこゝまと猪うも　かみこゝまる
人うとのつゝとうる人へ
きうこひゐる人とて立ゐうこと　きうまこゐる
地下れうとてくゝうるくや　ひやゝ
たゐ屋を宮の法むもゐうこ行こうしいうを行くゝ年行こうう
ぬるゐゐとそれとつゝうこん　大見うるゐとうりこい

妹居云の女房ゐとのゝうるゐ人しゝゐ猪ゐるゐいこうこさうゐ
りうやうこいつるも
昨夏と玉を行くゝ雪ふこと山行うをゝゐといふ　もハ
女二宮ゐうるとくくうもも
尼見こうゝ白こうりぬうこもゐこさゐまこけゐるゐ和
りゐこゝくゐゐこせんこひんうゐうこうゐるこさんこうるこい
とゝこけもみうゐ行こいくゐゐ行うんいこむこうゝおこと
やいひゐうゝ車こけしてゐういんゐゐうゐ行うるにいはうこまつ
おゐゐうこうるうこ　女見の姫うくゐゐうこうこみこさゐうこうゐ
こもゐこさうるこもこさんこいふ猪のうゐも
ゐうゐのゐこさゐんこいふをこゐゐこさうゐに今ひこうこのうこうこひこ
みうこうこうゐゐもやうこに車こうゐこゐこ行
妹見こさんこいふ猪のうゐもやこうこんひこうやこうゐまこで三人

のまてもつきうあ氏とゝ妹元氏車のことゝう
ゐゝしたりゝとやとゝとのとうふ氏りゝて氏行りるゝゝにありゝは
くゝ行りてとゝ氏ゝ　母元氏の氏行氏ゝとゝう　河伊芸国結云
小野ゝまうゝて氏りるにひくゝりるゝのゝりゝとゝれい者ゝとゝあゝゝ
元　大二条乃関白の女歌ゝ尼ゝ氏ゝ氏ゝ氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとあやしくおそるべかりけるを
をとこもしうしたる人の妻
幻ふかきにはをとこ
そきたにとまりしを
こうつきにうとかりけるを
行命業盡 論文
よろこびかなしびて月ごの
ひくにさしかつ数人
とりさうはとりつ
みかはにて
やりあと
さのこはとりつ
かはるるなくなりの
行人は

妹尾の
妹尾の
信部
信部
信部
信部
信部
信部

十九

かうかはるも 細 祈んこうあるも
ひとつをしるしとみつるれ
ひてとそしたりの
のちうめいの郎
ようやくいとをみつ
をう 細 ようめい容面う
をさうしたひとそうかはる
信部のひとも
功徳のひとひうれ
端正 大集経文 花 注義経隨喜功徳
不 面目悪端歳為人不喜見 細 戒行の功徳
ろへしとも
いとれ
信部

初心のものの方々は仏人をうやうやしくするぞとも味
天人も聖人も仏経つあるとも
そうさうやうやうやうにらるるとも有〳〵やとうひ経
細 思ふう行るれあるうとも
内ふかゆゆえとも有〳〵　妹子の女菩也たく新言出
新よ行るる人とうとの経人有りとの方うそん
本ふ初心の新言の経るる人有りとの経人とあるうそん
うんようとうひくくうそみちひひ経ふ〳〵めそひ方れる
ハ内ってうあとの経人とあるやうとてうとはうとめあり
初やをれ経〳〵よあに方〳〵うるとたう山とて
行てもうとうう仏人のそめふちんわとうひさうさ経と
地のやすあり〳〵いとうとに仏うう経人〳〵とやう〳〵〳〵
ひひくくうりうそやう〳〵　信部の初也経ちれ

編記（エンキ）と今案一切色心法法乃経ふとは月八阿頼耶識（アラヤシキ）
日合殺（ガッサツ）せり深海（ジンカイ）の縁り生ずるひ現行（ゲンギョウ）して仏も宗
生ずるの新言人の経の古地面寄此縁とりて生
出すうるし経あれとも縁あるれハ現行せ仏菩薩の菩提は
まほとい人生ず人の前縁あるれハ現行せ仏菩薩の菩提は
うう仏初心の新言もふ経尼ようやうう人と同あるにより
て法身の天代うちひる経ふ場と縁と成経とうう
やうう　細　仏も経ずれるのハあう人行まうとも
信部ひてあるう面大ごうたうち　信部れ初也中ある
の京あや禁ふとうてたやをのめ〳〵ふそとにるひる行く
女ひるひに宗ふとも下山〳〵行とかやありてひとうに
付くの経初ある人〳〵

[illegible]むさんの法師あり　　僧都卑下の規也云[illegible]の

法師といふとゝろの法也

いひるる所にやるうつをたゝうあと女のもとちまつをて

[illegible]　　河　諸戒乃中に廉

強罪ハとの法[illegible]も細隠罪ハ悪よりくめりたる

のゆ又戒八戒十戒ホハ廉強也二百五十戒五百戒十[illegible]

盡戒一切威儀戒ホハ細隠ろうきえ

花　法花経安楽行品云　　又菩薩摩訶薩不應於女人身

取能生欲想相而為説法[illegible]若為女人説法不露齒

笑不現胸臆乃至為法経不親厚況復餘事　玉美

弄　河流ホあて不用乃戒と破乃事ハ[illegible]

よりとひ古すにあまりて今市[illegible]人のもとゝ[illegible]ハ

細　今ハ[illegible]人名[illegible]

乃ち人[illegible]ハ[illegible]の[illegible]人

[illegible]

[illegible]人乃[illegible]を[illegible]人なり[illegible]

[illegible]乃[illegible]ハ[illegible]

僧都乃[illegible]

ハ伝流の[illegible]ハ[illegible]人の元[illegible]

こ乃僧法の[illegible]

ひ[illegible]て　　僧都の様也[illegible]

[illegible]て[illegible]

[illegible]練の[illegible]

[illegible]ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

まゐりて申されあさましくにうち〜絶月はかさくう
もあ〜それ作りはつる物のをてうせ〜まして　河
とのまをさこまてゆうてさてうくてうせ〜まをすへき　頼俊也
分あもはつる〜も　ちとまる〜れ頼也
ひ〜ハわこなひせ〜わうしのいさうの新帽をとく絶て
そ〜ひあうおし新帽　此おこうひあうはう〜紙と
とす〜此今ハ物語付くるも者と此仏あう河まん
えくう　河　或記云若深度皇后はるやこの時今業山よ
つ久修験行の行者参りて加持〜まう平愈れ後年
山よゆうて年来乃行業を廻向して蔵て鬼とおれ
つ雑毒鬼といふ者に后をとうう〜まを成者
流大師意る教誡〜絶られて雑毒鬼こぐうこあう
てまを成る時あう〜所乃やうにあうて消まけつとる

後后もとのこうく如絶ろうこ善根之の記あもをくた
つ大師乃法華ハなれまや此滋賀人朝憲人ま
蔵るあ物しこ　細雑毒鬼のるをとひろう
ま記女のはまこ絶行〜ふまをてかくへそうあい
て〜に　元ハ宮治の修験寒れ宮とおつやくへとう！
なひあ〜やくへ大者と此法師どうこうまうと
此人を四と学代修行く我ん〜あんといふとよ者
るの行〜ま〜ろ代ろく　　物語るまこうま
しうあも
いとう〜ま新ひうと物〜行〜ふうて〜ろうされと新
者こを廻うあうたにくを絶られて此修験ま
なあいうさいまるこあんとの〜新〜いうあみそとと
たも　　物語の為をこあをんとて学ろ和ろるやそ

まれたりしに法師の霊れつもりてとてなり
とハ物のをそれなつかさあるるや
はるかなる人物をとれさきやまりくるをもつて
はるかなる灵のさ〳〵あるハ物をもをそれあるまりくるを
こんとも答ぬや　細　うれし舟のうそれ物や
ちうきのこうちさきやうにんさうれ物なりて見まりて
られて　細　霊のいまたまりあんとうにうるを
て聊（ちか）こうちをうれやうにあれ給とや　細　宿舟や
ひとうをみ〳〵人のうわをたなくてこれ老法師ゆうを学うく
あるれものをもはうをまて　宿あ天中性よ物て見
今に徒を宇治まて見くるうんやうれとやおかをうてな
きはあり氏法法宿舟のうを治まて分あきんとし給
ものうるもとうひて移みあるうへ

ちうぬうみこさに今ものうあ〳〵ものとうれ〳〵者の事
出ひ出まと　乃　細　ものあんをうれ物をれ技ホまてうて
つるの分あり〳〵和のさ海あるとと思あくをんや
出をうん法をれとひ〳〵人とたふをうにうくく
をあはうたあをうをうとて分とあけ〳〵人をし
河こにきたるにうとせめてをひうまをいとふをを物
とれのひあけあく　せめてをひ　わ国業だるや
みるんの移をうをに　宇治まて分あけ給をんとく
つるや
はをさをとれちてあるしに風をきう川波をは
らうやうとひとるを物れをうるうをうふをゆく
されをあはをこあ　てるぐみぐ移へ
をのこれをにはをうあうをあうををを

きとゝれてゝろゝんをたなうをみるんはるゝこれ芝にうを
ちんと思ゝらゝをたこう面ゝゝてんよみつをらまんゝう
ハ羽みをもゆめもゝひゝくゝうゝゝゝひはゝくゝや
みゝらゝゝをいとゝゝゝをある男れゝりきて　後法師
の長ゝり沢ゝゝあゝんゝ仏ゝ沈舟ハ白ゝゝとゝひも
ゝゝさ行ゝゝとのゝゝもゝゝゝとゝゝひゝくゝゝゝ

あるこゝろをもちて人をとがめそしりてそれ
しきまゝなるこゝろをもちて人をそしりあな
がちなるこゝろをもちて人をそしりあな
がちなるこゝろをもちて人をそしりあな
がちなるこゝろをもちて人をそしりあな

人をそしりあなが

[illegible]の髪はらはせて　[illegible]

一年あまりぬはくとも髪はうるほふて

[illegible]女房たちなどの心ばせ

[illegible]ぬはくもうき[illegible]

[illegible]に白たちなどとうとて[illegible]白はかりなる

業平朝臣中将年老たる女

河内へ行くとて[illegible]

[illegible]

[illegible]　細　[illegible]

[illegible]

[illegible]　細　[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝつて　ぶつ　ぶつ　ぶつ

そろへたるなりて板　妹尼云ふ書のるなり

ひとめたくひとりとゐんしてをうつくしてよれるこころばせと

けりて思ひ出づるなり

妹尼云ふ聳八可然人のる見

ふく中ねと心ゐるもさまとこひをめをたく物しらも

こひをめれたくあるとにそれて物しらんと思ひてかくち

ととうんうる紅山里ゐ住をこそこそらこと

すり恋わるる人のうるんあるもこころきをんとそに

乃出てしう郎はまてしこもんはゆそふまうにこひをけきそる

とうゐはゆくあの人のうちをそこひをまそらとちくあるばえ

くまたうつのるなもおはゆくこと　尼云ふひとめれるなり

ちやしかちしあるしうれとこと

るはちくこもこ思ふあるやこひあくくまくこと

ゐ尼云ふなり

袖ひるくれといとこそをたうをたうあるとて袖をはてくる

あり　妹尼云の袖をいうはあるやハ可然とゆめたる

なるもなるの袖　細　尼云れるなり

苦れ山里ちとハあの苦ちもうやうなり

宇治の手をいて　花　宇治川とくあくまくれるの

苦とこうの小聖の八苦云ふ（ネナキ）

なるく　細　宇治なり

はるるとさ所ゆ人はるはの本たちかるくせんさいあとしお

うをゆへとはくくしたり袖りくるうゆをハそのをそひ表る

るとつ田れいひうあとて所よつをあるこのまひくつと

うるくあこもをうたくひ弟うくはつりそる引あくはる

をはくく

くてくるひある板とくうあるとうやうにあまひなと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくしてさとりたるみけれんの心とやるかたなくまつもとく八島
いつるかなとあさましくもおもはれつるかな
つるれも　家ちかと年ちかうあらはれも琴をひくと引
よりをきくとなくと口伝とうけたまはりやとやるさんわそびとも
よるのしらべ　はまりに琴をひくとひとしく清まく
きこえさせ給ひてつるおもも
細　もしもの御ものとうう
かとあるを　源の川つらやさ波とたちてこうきて波うちあ
よりをきこえ　我をもやさ断とあけうるとたちく
めたるそとも　細　行まもうつるくとも
叶　なくれゆくあをこうとかぬとも元をくとかくとめ
思ふかよりをれた　はかなかるくくあるまとそひのかと
をうさまをしゆくをもをもとみいつやうにうあくんとかをそ

まれとのよりをうんも
行をもをうつるめたくうまくくをそひやくあ
なをくをはなるまりあやあるくんうんも
月のありおまれくくはいくくをもいをんまうくくあくくと
をりこはうくくのはをあをもくくをうに
をとをう　えんとをは流うる
いくくあくくをうけまはけくくやうちなをく
をあるのんも行まをいまくうあくくをくくけ
まはくくくくをあくも
我くをくうをを世にはくくあくをを推うををくん月の郭り
をあるを　やうにあふ思俗りあくくくるををとを和
をくをれをくくしをも月をのやうをふくをもたををの
るを汁をくくしわを月れりくをれをくくうくう

細 むかしなる高やもれありけめてうろうすとひゆる橋也

月乃新ハ京れる

今年限りと思ふとあ〜程を宝〜ふんやほうろうや

ゆ物のんやも月乃きんと出立〜時自分ハ思ふとうろく

に出〜うろうとうとしとハまりまりハ思ふとびたく親乳母

つるのと出〜おとも

きとんく八月〜と思ひて〜ふ氏とうろひりいそんうく

ふ〜行やうにさうひ物ろんめ氏とうろひりいそんうく

ふ命ぎんと思ひ〜物〜とりに行ほんをれ四ら〜ろんいろに

わ〜ん我世ようる物ろいてうろんわ〜ん行ふ〜ん行ふ〜ん

ありう〜まに〜ふ行ふ〜さはるゆ〜ふ〜ひまれた

ゆ〜ふとあともりう〜ハ出〜後 ゆ物のんも

宇治ろうとうろ氏と行ふ〜ふ命をなろう〜まく

に方と行ふ命とうれうろうとひ出行とも

ろうふんろうふ新山里ハ今ハとひあとうる所ハうふ行き

なうとうれとたいうく年強ようる 年ふの地ろ羽也

細 山里乃行也ゆ物乃小野を九山里ろ行ふ〜ぎう

山里ゆ付ろうふんゆとうふ〜也

尼七八人ハ〜はゆろんあ〜方氏〜れらゆ也ゆ〜こやう

ろ物ろ〜と京ろ宮ろんをろ〜と氏すて行ふ〜ふく

物きうろひ宇ふうやうれんろ〜つきて乃〜行ふ〜にいきう

ふひとのろ〜ゆ〜ありけりとうとうを氏〜ふ〜れきん

ろうみ〜ろ〜ろ〜ろんろ

年ろうあ〜ろものむとあ又むゆろ〜ろどう氏ふ〜ふ氏ゆ行

ゆとあろうを氏ろ〜ろんゆ行ろ〜ふ〜ゆ付ふ〜ろ〜ゆ氏ろ氏

るれゆ〜ゆ〜ゆんとのゆ物ろんゆ行ろひゆ乃〜ゆ〜ゆろ

中代自宮人菫の行ふ所にて
名もとゝ緑あるにつきたる物や
つゝみ紙にてみつくさをゝ
しくゝとゝくし　しゝのてゝひやしん八重紅
うゝ紅くにうけ毒を尺
もめまことあるに八重の柳も尺し行きぬとも
たゝ行ふるものとして尼元代ゝ
そ　　ゝ物のうにうけて
音女のゝ　可　上毒の陸ゝ
ゝ音と家花物行よ尺こたゝ山ゝ
いゝゝゝ尺きにてゝ
文毒合　緑吹　判　俗ゝゝ

京ゝ毒仕ゝ

細　二人の名や　ゝ
山ゝゝ　ゝ物に毒ゝ人毒ゝ
ひゝゝ
尺ゝ山ゝ
ゝ物の郭ゝ尺ゝ宮古ゝ行ゝ
行行ゝ　引毒名ゝ行ゝ山ゝ
名ゝ行ゝ人ゝ行ゝ郭ゝ
といゝゝて郭ゝ
行ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ行ゝ
行ゝゝ行ゝ
ゝ行ゝ

細　花　苦尺ゝ郭ゝ人
細　花ゝ説ゝ郭行ゝ
行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

細

おなじ所にて

八月十四日

かくのごとくにて三日ばかりの間、雨ふりつづきて、
ある人、ゆへある人、ともなひて、
人々あまたにて、

そなたなる人、やとり尼にて、
尼君の若れば、この君、今を中納言、
妹尼にて、舞ハかねとゆひ、ぶとを中納言、
あるべき

たゞうちとけてんしれ、
便部のいまだ物、行き山、うちとけて、
ちゝの君、はひの、
中将なりとや

中納言の今日

横川よりのかへり、
さいらをひくわてやうなりけるとて、
横川よりのかへり、
くさをまきて、
細をまきてあるも　花　中納言と小隠居と、
つゝてお花をと数をあらきーーーの
見つゝて、
くにゝゝゝ

中納言の立春と見ハ、
おなじ、
去流あり、
ゆとゝひゝ

横川よりのかへりに、
さいらをひくわてやうなりけるとて、
横川よりのかへり、
くさをまきて、
細をまきてあるも　花　中納言と小隠居と、
つゝてお花をと数をあらきーーーの
見つゝて、
くにゝゝゝ

中納言の立春と見ハ、
おなじ、
去流あり、
ゆとゝひゝ

細　うち舟の中の墓所

宇治の

山里は思ひたえてのちんや
住つきたるくくハぬさまをたれかてらすてうきか
ようへてるあもしことをかりうくとをへしきかやうる
とさをさしたてるに色くのうきぬをとうされかをこと
ものわきわるくして
尼公おとを面白しと
ひくるやも
月をあのしらうくくみく　中ねるもの仕のひとも
中ねをうきぬをくるやもうんや
面かりてにようひをくあをけ方なりめてわくらと年十六七
八のほとにくゆひくのひ仕ちるぬちりてはを
たり　中ねの板也
尼公ちくくちふ九地をてくたのめんし給まけうち
ものあくく　年とくくる尼公のたちをれ行とも

年ぬのはすりみ尼をあるくをこをこ給くのこの給
ものと　尼公の須也るたをうくをくしをのれとをう
山里れひくるとにあるとまちをすくをくしをのれとをう
やをくるぬとうけをあやくくをひ給ふくく
中ねの書(ショトル)給ふをとう成山里れ之るを尼給ヤ也
尼公の須也
ひのくちををくるをくくをこをこ月給つをあがくる
をくと　中ねの尼公のひとををとをこ中ねのくちも
るをくくをとをくくをも中ねの須也
ひのひくちにをくをくるれくかなをの給板くをとくをん
尼公くちをを若ハ家くをくるハ世をとくくを山
里くをくをくを尼をとのくくを中ねをまくるをまを
行をたるをの須也尼公の世(ガ)歌とあくをくをゆへく

とのはるゝ疎(ソ)をあるとも
山こすもとをうゝ山りくはめりゝ
山ゝ中おのうゝゆもゝ
ちゝそんせをゝとも
おゝゆゝをゝなゝとをゝひゝ
おくやゝうゝはゝるゝあん
ゝまゝゝとの行ゝゝゝゝ
ゝ西白ゝや 細 同尼とゝ
ゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝはゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
河略(ハブ)同 省

尼ゝの
中将山藤せゝおやゝゝゝとれ
ゝ行ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

蓮子　蓮花蕊　蓮子敷盃　安令酒杯　枝　西詩　春歌

樂天　酒鈎　送盞　推蓮子　獨酹　黏盤　畳蒲萄

同　一院云水飯り盃とそつらつらつらつらつう蓮子の中に藕実とあるかるるいつくも　蹴　多れも　麦の舎人

逃げ藕ふもあるるへるわるをさうもさとはもの　細　飯を

のこもいろんもいるうにしめるたるう

ひとつの物やもそれは蓮子也

なれもわるもにく

中ねしこうれはなもしもも

さやうるもはこもれはうてしもれうたにて

めももてあるうもあやうにうはなくもうにく人

うもも

尼云のもしもを知れるも

式部乃はむ人をもれいとうやうもりしとうれの知りと

ひももあうもんいとうれもも　中ねとうれはもあさ

じうはるもも

あもとうるうれはもうにうんとうひもうる

むもうるれも　しをめれるうれるも

むさくにくはもはうにはもてもめるもこ義はもり

をうあるもにうるうるもも　もはれるも

とうひ出るへもとの尼云うも

姫君を我はもとうひ出るうるうはくもあなるめるるはる

をうるはるいとうはる

と中ねを射てしをもれるもとうひ出はるもも

はもこはて多を射とも　細　尼云はもの

尼云はもの出るもうるはるもはもはもはもも

うるもとうひ出るうるも

うるもはもはもは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨の音しきりとはなりそうなるひとく　いまさ時ぬるものとそう
かねとうちつけ人の物とものそうとひとりをはなつ
今八月十四日なるべしや
昔月ゝ人ゝ八月十五日なるべしとおもふ
うゝ雨うちはらはるもかゝるくもりはてゝ月もあらはれぬ
雨もくゝ月ゝ雨はらんとの給　中将の殿の
そゝ給ひもとゝ
うゝ月ゝ雨はらんとや
はるゝうゝ雨ゝ雨ゝ雨

かねのこゑ

ひとりねられぬまくらもとにたちよりて
きくとはなしにかねのこゑ　あつまれば
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし
あいもはなるるやうにとかねのこゑ　中ねのとる三位なりし

行ふかたもなんなどもの物のひさうなくきこえに 細 と
はきえうなる行ふあやしきなども月毛同 弄花同
人の物のひとさしなるふやはりしるとあるこそ命とうるこの人
うとしかねてとしくいつる
ひとくうなどもとはめてこそ 古代のこと八中ねれ人の恥い
ねれ人の物のひとさしなるとうなかくうるも
てと清なふいつまりしくうるも 弄 小ねれ人八中
尼ろうなや中ねの恨とうるもとろう
行ものくうに昔のやうにてこそ乃ものうるやうて
中ねとうるうあるやもあるなとの尼云れんも
義中納言れはあるうるとみたそこにうるひ孫やうるれと心
をうるめ給うる 中ねのうるひ孫西也何ものお髪れ
息のひとめふうるふやうにうるれうるも雅ともうれ

可
河 可知やうるひ八孫人をを中ねるうるくうるもうれうるも
鬢黒大臣息ふ聖れ尼の舞乃中将惟今代人の舞え
ものうるやうるの息うるうるみ分人とうるうるもう
親の尼うるふものん物くう孫とうるそうつるれと尼えうるの孫
て 義中納言乃ひるめ中ねの心りあうるふりて
親親乃うるこのうるうるうるくうる尼の孫也
ひくくう物とのうるうるうるうるうるうるとくうる今を
なくうるうるうるうるうるうる

心ゆきなきことを世間つまりとも三重にしくうるとこひ
はるる人のうへもかくなりてはなりいきそれく思ふこれ
みて作る　尼公御方
雅とえうとうるとうるとうるとも
思ひ出しく行くかくく学ふあるをみるをいさ学ふ光
るものよこそはやうくおもひあり　尼公の御方
そうしひもはるこしひるをこひ行人者ともとふたやは
月を学ふるかくのやうみたりんなきたるは雅とも
そうまつ八月を行くとも　れ　雅ろ人ともはいくとも
とるは行のふこうるやとくこうるとてこうう
ま後のつるはいるやらるとあるやうをえくもわくあと
さんちんとつるはまても　はるをそのあ光のも
うあそはいそるあるとも

つくく流るるて居るて学ゆる四を作くねとわやくるとうふ
うるるうあるるるるうるるるる

くらとしの給その程ハとまりて物をたうとぶ人くまの詣をと
ゝまりて程ひとゝせ内そのの給　中将信都
　　をうり者の人ハ心めしとのうたにさやうれるすあるんや
せんしの者こゝろあるる物給ものとをとゝ給はつてり
　　細中将乃事也
小野とゝのそらとして物表あもあるゝ　中将ハ
　　猪師ハ物をうる物也
ものをとて給をとをうれ物をうるんをうくく
こゝ給をの給はつくに　尼云やうにとひをまつてよ
とのうれ物をうるんをとゝ中将の詣めをうる物也
用の詣あをたうとつるひをうちうをとをくはつけうる
人をこゝ給をつまあゝふりとやうをうんたちてはるをうに
ハはるうをうてあつくの人をとゝ給はつけうれ　中将わ

物をの尼云乃所をとゝ給をとゝ猪師ハ
　　くらとゝ給也
きやうれ所ハ物をうれ安ハをきたるまつをとゝ物をこゝ物
也内者乃多物ハ給猪師也
　　うをををををくくく

ひてそ侍るはかりはけうくれわろんう　中納の殿やうろ
　　ものゝ宮仕のこゝろもや
　　尼とのゝ宮仕のこゝろ　　仕奉れ給ふ給れ
　　こゝろもとの御やこゝもあ給ふ　中納とうるひと
　　よ奏給へ　たる姫君　　御消息よ初めて
　　仕給ふ　　と　　詠給ふ　尼云
　　中にて姫君　　給ふ　　給ふ
　　ゝく御こゝ　　給ふ　　給ふ
　　文の日御ゝ　　給ふ　　給ふ
　　中納ゝ　　御ゝ　　給ふ
　　侍るへゝ　　中将
　　尼のゝ　　中納
　　御時の　　給ふ
　　の尼の　　給ふ　　中納ゝ　　給ふ

　　ものゝ御ゝ　　中納
　　尼ゝ　　中納
　　ゝ　　中納
　　ゝ　　中納
　　

ゆくへよあん　よ碧れ
ゆくれるみちいとはるひさけ　後あく　言ふ者と人すら
らもんすをとるまにたひくはせ　経　八うは合れ
そそにハそれうん易ものそんとそるけ　行ると　若者
はしやはある年　者
ゆくてうとを学ひてうとを結てうんといて　海　よ碧を
行とうあ中わいとくあうう結そて居云のいてう人
行そう
うちうきんありて来ううんみうふ山みうふ居のかとを
学ふ者　中わの翁也　海　よ碧
ちはきに来うちうちうも行ふるとを学あくをう
ふ結人なれハ別郷あるやうを隔ひ結うんうす
みくハうそとも山みうふれうとを居大ものくと

よまうたるかくハ山ふとるくとまうとあるとん
くうくなみとも　花　うちうきハ直のんやうく
まして行ひうとをうんうくにつをてハ　細　若行ひ
とめふ思うそくハ行てそやも
ちうくにをくて結まうむくとたくそハ　細　毎事也
うくうすちうを学ふうくとを結人みうくさめやうくうやも
ゆうくまをの結ふくて結とうくてたくうくに
中わの翁也も碧ハ行とをうるあ面かあくせをと結結人そ
とくくさめうやとゆひくくを出海結とそれ学也
わうくかをう用りうひくくを学者ものくををうゆうんを結ふ
中わ学　よ碧ふわ学ものくををうゆうんを結ふ
よ碧せんやも　細　ひうくをるる用ものくをを結ふ
わうくかを右にとうるを海をうるとう学て

紙系拾葉つとに不載

やうなりてかねつ居てゐたり尼そも見おくこの法師
つとうきを行へいとをしみてこさきをうゑ行るゝ人なれとうゝ
ゐくとしけゝやそくれなせし　中ねのゝもゝむくさん
なれと文をもとゝ不るおもひ人を居るのゝうるも
いとあやゝしくてとゝいてうとうてたゝふゝメ行るゝし
ゝ碧の返答
ゝそなたなるゝうゝて　尼ゝひ俺て在るゝし行も
居るゝ居るゝさをはるやうにゝゝ人をゝ人ゝてぬ人ゝかてゝん
居るの文をもゝ碧の紙をおゝゝたるやうに人ゝゝ
ゝとやゝやうゝ　細　前ゝ世ふゝゝゝ人ゝゝゝゝんゝゝと
ゝゝゝゝにゝひゝくゝゝゝゝるゝや
ゝゝゝゝくゝゝひゝゝゝ居ゝゝゝ居ゝ

居るゝ　細ゝ
てゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

秋のくに移る者なる女房花こうひとうれ者をうさうん
きいの居えうん四くく一ゆ月くくもとへ行ものて年とのを
へう　かわの尼うるもや中ゆ又小野をたまてくもの碧れ
ゆくん使とさすくやや
いくくん行ものくもあくねく　居えのんやもの碧ハ中ゆよくう
ものくもしくゆまくきとの家や
居えまううれ山のとゆん月ゆうるとうひうくく
居えう頭や中将よの行や
小町
雅平もまううれ山のとうくん秋と笑まるくを有し
の碧の笑ある人のゆるやうにいひ出るや又流ぶの碧ゆ中
ゆ笑うとゆひうくよ云ゆとうもうゆ碧のふよ笑うる
人のゆまくくもとくん月をるものゆるくゆとの心可
行くもゆ使ハかわの尼やゆ

花
小町う奇こうにうのうくよ如意ものうあり陸れ紅る
秋と笑まるをゆゆのうひゆうくく　年それとうもう奇
れ紅とゆ一の紅を秋と笑まるくそゆるくくゆゆ中
ゆうやゆ笑くくんとゆひをて云んゆるくくく又ハの碧ハ心
はまうくくうゆれくれと又くくを秋と笑まるくゆゆある
くんとゆひくゆ心をゆるくくくく　細雅とうもまうれ
山面笑ゆう一使を代居えの深毋れ四をゆくくぬるゆ
とくくくうゆゆ中ゆうゆ笑ゆくるゆを賞くくくゆ又家
ハの碧の笑ハ性くうゆくくくくくくくものゆくを
ゆるくゆふうくくくるくゆゆゆひ流平紅を
紫ゆくくゆゆ　居云中ゆうゆ紫ゆゆ
くくゆくくくくゆゆくくゆゆくくくくくくく

中ねの須やとゆるのうすとそうみのるやうにさるのハ
ゆうぜんも
山伏ども法ゆしまりなる心有あるゝ　中ねの須ハ小堂
つるまとるるも仏まうれとゆるゆるとゆ後中納言殿女ると思る
あうるゆるや
ゆうしゆ法ゆまりなんくにこさうとてゆんをくしゆ
中ねの歌を山居とゆうさねとも
うに仏ちゆけるるんのうしてを　ゆハ学ゆうんゆすと
そうゆうちをるんをわるやうにくけしたるゆまハ
ゆさうねやうやるゆうるんてゆ物をゆるゆんゆれハ中
ねとゆるゆんゆ法ゆゆさひあるとそうゆうるんの足
平同　細　仏ゆをるるんをわるあるハゆきゆゆうゆ
さうとやゆうゆのあるさ海るるんゆそ部

仏ゆハうるうひうれとも
かくるゆるるんのひうるうやゆさゆゆうるん
花
くゆハ若ゆ　ゆわるゆうやゆうゆうるのの
妻るるゆるゆうるとも
物ゆひゆるるんるるるるゆうゆるとゆるゆ
あるさ海るるゆひゆ
ゆ
ゆあるんるゆ物ゆるるゆゆるるゆるゆるゆ
とさうるとも
仏ゆうをるるゆハ法ゆんハ学ゆうるるるるゆ
ゆさ海るるんるゆ法ゆゆ
やうにゆれるゆ中ねゆ尼ゆ法ゆゆゆゆ
ゆんるんゆるるゆるゆるゆゆ
れゆ　ゆねるのんゆと尼ゆれるゆゆのんるゆゆゆ

はるれとも　花　尼公の詠也　詠れてとゝろるやうなること
をうらうてと云るへも　再同　仍　ゆゝしく也　云心
花と見てかくんとも思ハぬ　古
有名れ

ゆきもくなをさゝひつゝ人くに今をとをもひる仍ハ
ゆををくはゆしゆうしゝ物と　尼公の詠也　ワ　やう
ゆる年ゝをとさゝ人世ゝをもしくはゆゝをきも
世とあたるさうゆくハはゆふゝをゝん人ゝ仍ゝと
ゆ物のゆゝをゝゆをさるゝをとうゆのゆうれ人ゝや
うに世をとゝじんゝの仍ゝをゝをゝてくゝゆうゝん
とゝゝゝれかやんゝの仍ゝをゝも　細　ゆゝをゝゝゝ
世也　仍同
かやうゝてゝ　仍　尼公の詠也のかやれやうゝ也

ゆゝをゝ仍ゝ行ゝゝくゝゝゝゝゝ　尼公
ゆゝゝゝゝゝ

やまのおくたきとうもまつられぬ山のあれぬ尼ぬ所
しへもあるのあり所と奏まうとの所と行りへとと
をそれハワくんとしてのたよと恨ある後やと
中ぬのことに前の奏あり所と奏まるやうるぬ
したるや　於中ぬ河社と奏わるんとう行り
こそやこおよまつらる山のひ有るまうんぐぶ奏る所
り作今さうれて社と奏めるまうぬつきとそ
のうひあるれて社と奏わるどうしてとケくさあるまと
まやとや　細　おろ引奏とうりてうう奏と奏ぬこの
ぬうとぬるまてうるちやくるや
松生れ殺メと為てきつまとと也と又義東れはやてさうひ恐
中将奏　まんとい行はさうれて又奏まうまうと
まうう又と云りて恨とまるくあるはさうひあるてやうし

あり　細　松出ハ尼ぬ云りまて云りわ為とまうると
やひくさつまとと為ぬのあるとへとをはまるれやる
そう奏りまうとつふうや
ぬるんとまうれと云にたとやもまれ　かねれ人ハ人
やあてびをるまと為ぬるもしぬるとうるぬとやる
とや
さやうにまつるうんとひいそんもてと行うく
しぬるの仏やさやうに学ふわるへのやうまうひるれ
つ仏や
又ハひそめてハうやうれぬるうくにやうまんとひるうか
ぬはまれいうへとたふしぬるてひくあまるといるひケくぬ
あつう　そまハ曲なれとへうくあこるや
尼ぬとやうハ今あるあるへうそ有るるぬ為へ

若八幡流れ[illegible]くしき[illegible]ありとも[illegible]
と中ねよしなどの心也　細とやうやうハワラ[illegible]
云心也

秋の空はれ雲[illegible]
[illegible]心を小雨[illegible]
薄の穂の[illegible]
細　雲人の[illegible]
て有[illegible]也

やちまたとうつるとやすし行方といつと　[illegible]尼
[illegible]
[illegible]
[illegible]
にかね尼申とう面[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はいつくしまとは神のこゝろにてつくしまとは
事ばのこゝろをばたのこゝろにたくはへてこゝろをとるすこゝろの
はまとうしとゝんなり
さんこうふうこゝろこゝの中にこゝをあつはうをいつまゝにて
家の尼たちれ事ゝめゝあるゝ人ゝ事ゝ事ゝ
とゝにわくやくやうまゝ
の思てゝも
うゝあまこゝこれまゝにこゝやくゝふこゝとゝこゝろ
ゝくゝゝゝ　尼君の所ゝゝとゝゝゝ
とゝにとゝこゝの事ゝ
ありはゝゝとゝ
ゝこゝゝとゝこゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝ

命こゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今[illegible]めてあるもとやはるとくきくとくとくあるもとれと

細 [illegible]

てはくとはるるもとまくくもとうめとうもとて

乃こゝの山路あもとうこひうもの秋りうひべこうこうに

出給ふんとうこに　[illegible]

いこんかるるくみもあるくくれさとうけまけはるる

[illegible]

古 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

心ちくさのふるさとにてはるとあまりてとしもゆ
　　中ねのくもゆ　　ものすてとしもゆ
多年ものしも
　　三位ちんとの家也
雨のさ間りあるこはすさまくしやとこうあるんとしもゆ
れ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ
くれすてはんの心も可（キヤハ）ぶ　　れとしもはまあけきこもゆ
　　む　　尼元の亀れ君に
　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ　　ゆ

[illegible]の[illegible]やとも　於中わかやれてうらに
月はてらんやとうらわるるなきてうくうう
あといつたにこの大尼天
よめて行とも　細　尼天乃母也　仏法物語の狂言うう
第乃母とはのうに中はけりたりうれいさんふめてくいてふ
たりもてうこうちうつきうくきかみてる
うくいてれとあとともうをいつたきとともわりひとね
なりうへ　大尼云のうとうりうきへさへ時へへ
ハあいさんかもいつあへうるといつ知るうに仏大尼
仏ハさやうのうと行るのの行とねとも若うひうきるく
ものの行ねとも[illegible]れもうひうねと大尼云ハ中わ
とも又雅とも多のなく[illegible]れ者の面白ようかされ
て出行とも　細　若れ尼云乃ひこれ中わあくうう事

ともうくもうあうへさうとも
いてそのきんうとうとうの行へ　細　大尼云面白ひとあれ尼
天下いつる和　弄於第同
うこあくハ月ハいてとわうへうきれそういつくそたちう
はとうとて高れとうつに　うそハこそいつるうも
ことくいて人者よあ面とうねやこぞ少はとのせうを
いつう行こそのこ和といつうそへ者女れえうへ
河　古ゆまいつへへうそたちとうとゆうう僻るやうそ
へうとへ今付こそやう刃やとうとも行こそあとう賺
女乃面[illegible]へうやくとこと同郷者也又古今物語
も屋とわう男うう者えうと門教阿古屋とう
面河も名とあ下女れ中に行くそ中とうふう
花　うつかの物語みとはう刃あり家うそたちうとうう

童女の面様なりとへしとれ等めも伝ふそとうつくし
　　中ねのんや
　　細　女房たちくそとんとろせ
　　みもしそとんの名は付ていつるや
そもしかりとやとしうちとにらもと
　　中ねのんや
　　細　中ねの御りもハ尼公れ母やと指しうるや
　　中ねのんや
　　大尼公のあうしんの名と中のてて
　　中ねのんや
　　細　孫女とハうしうのて
　　中ねのんや
　　細　中ねの御りもハ尼公れ母やと指しうるや

大尼公の琴引琴ハあしうゑんさと早下りしてゐるや
河 ゐなそ俗人耳好今不解吉丹北窓琴月こ生塵土
文集秦 中吟 孤琴引来れあしうゑんさと云ひをの河や
とやうハあさくちくくの今ハこれまれ孤行ゆゑれ中
くめつくしを表りやゆゑ 南世ハもちろん苦やう
とゑんやわさくやゑん断こやゑんや変りてハをこう
ろうとゑ表やゆさくしをやつるけえんうこまうと
乱ハ伴ゆのゑんや 乗 ひとめれわりの琴ひくとや
てや琴れるゆんとの世めけひくくんこまれるうこのる
世けゆくくゆつくしやゆゆくやとやうやハ南世
不孤このや世南世と云んをこく 細 中ねの大尼琴
と感じくるや かんひをそくゑぶゆる曲ゆやと
やうとゑ南世ゆうちつねとや

孤風をひとうくこをてこやをゆあこやゆる第れ孤に月
をめゆんくをゆる四ちをれも 河 孤風入秋琴に
いよくめてらまて
りのてく孤をゆあゆ南ゆこうう
ゑひまこひをやけゆゆゆくゆ 細 大尼公や
ちんけ
ゆうゑハしくくゆつくくけくくハこをけくくひゆ
孤りしくを 大尼公の孤をゆ琴とうう
又琴世けゆうをとけくゆをとうをゆ古ハれ琴をひ
ゆうをとうけゆやをれくを色俗都いまくめ孤ゆりけ孤
くゆゆうにのけくう 乗 姫字や琴女ゆやこ姫字
なり琴女孤ゆや
とゆ世ゆハくくをゆくゆすゆやゆん 南世ハひくゆやう
くゆけくゆや

式信卿の雪ふる会にまねかれてまうでたりしに
しるべなりしまうちぎみ
河バンジ
万寺家中将カイヤリ新参センホツケンカウサイハウ心發西方
ふるいとしとしのつもりもてはやしてとひ
まうでとてうれし　あるる契とは云ふべきや
いとあはれにうちうちしく　中ねの猿や大尾君
つねとなきあるくと思ふらんや　細中将や
いとあやしきことをやうにいとなる侍部れ
中ねの細也
極楽といふなるはいかばかりなるとも
て天人あまたもまひあそぶなれば
まうきれはこうへぶるうくいうもひさく
も　中ねの大尾をとりくさめあるんとう

いとうしやと思ふく　細　大尾云れもわひしらや
いそとのまとれくそあいがうてといつめもしいつるし
あるこたくくハたくあるとこと侍部と内へうしや
ゆうう独へあいひさうもあるこしいとわしてまう分た
つとうしまをて
弄ノモ
夜ノ
夜ノ　ひさるのあるまうしそやこ
とのもとれくそや女の名よ宮とうづのきれるの也同
とのもとれくとのうやつことのうやはこ世行一動
とれりとハうる夜燈也その被ヒハンれ下ヒモビ部ものもいつき
つ宿みをうのうのうりとハあり体部ハンブとも云也
細
とのもとの君とも也　於大尾ことばを中ものもそこと
はうさうる女房るとうや　条ジョウ夜司ツカサくそやを云侍也
たくとれ亀の殿とも弟をたくとのの心をとりてわつ
のこうをとはさうさやうにこうはし
八大尾云の耳をと

それを調子とて中メたてぬ拍子とうう
みるとう和八竜やうつる代元もうのこゆてあるぞうく
大戸云の和琴ノ調子はうりわるとも琴弟とうちとく
と大戸云をれ琴れたりしうさみうちゆてやメうとう
角也

手をうちゆうくたうとうをしてやうにひき
あう　弟代唱歌と和琴ようつてひきうあうへ
一中ゆ代たうり角んううくたうとうをふうとくあう
光
弟八角うあれうく中ゆうゆうもうとれ琴に戸云の川
たうも唱歌ゆどにかるゆ〜拍子拾き弁　弟うゆの
去面白中メゆう代元たううたうとゆをじううけつと
細
弟の歌代唱歌ようとうもたけうち拍子くたうと唱歌也
うを代うとうとうるゆふうう　唱歌れるうとう

いと知〜色今れ学ふ学しゆうとうとてへひうを拍子れとうむ
き代戸〜ゆのくしくゆうう〜ゆんううひゆて
代祖も唱歌れるゆも元八中ゆのゆうて〜うう祖也
とやううとうゆんをうやうゆうるうこと代そこのまれたうけう
うに月以ゆ〜拍子れ拍子れ元ゆうちてとうをうゆ〜
拍子れとゆうをううれゆうきうとし拍子たううゆて
ゆん拍〜拍子ゆうを　大戸云の祖也拍子元とゆ拍子也
ゆうこうたうちゆうきをうひうくゆうう代
〜こうそうたうちゆううひううとうう　大戸云とれう
戸琴ゆうゆうゆうきゆう〜〜ゆうゆを　中ゆの中ゆ拍子
中ゆの中ゆ拍子

琴ようゆ〜ゆうゆうを代拍子うとうを　大戸云ゆれ琴
う拍子真のうゆうゆうを

中ねのみやこうち御ゆき也

山ぶきのはなとたくさんにさきてあさ
ぼらけのほどなりて　中ねゆきはなとも
ハ　ハ　ハ　

わらはのうちにさうめんうどんあり
もものはまをもたんをとりたるやもむかへのうしぶの
うちとりたんたりたるのもものはハ琴をあとひさかるねとうひ
うてもものよれとうりあねとこうり行てとの尼公よ
ゑ中ねのうちうへのたをやめ　細　おめとりうしうしぶ
さやどハ行てんたりたれいひるや
うしうしねもたりたなるはらうあうちとうれうんじ
中ねのうんやたりたのえりもものひるたとひうたりとふ
うしやねるうれたりたなれえとてうちとくや
細　たりたりたりのなまとやうや　弟子地や　かたりたれ
ひとうりとうれうや
ゑのたりたりはうしねはとくうとうをわうる　中ねの
うううとうしひくにうたりたりのひううしうしたり

とのうやあとうたりたりとゑのうにそうへあうう
ゑの　ものうりはうしうしはしのえたりうしおうろうたん
今ものもうりハ法毋れえうんとうるやう
ひ　細　ものうんや
いとしうしうしうしうあ郎
人のみやあるうしうあるはやもはとんうをけりうく
もやうくうひうるうに　ものうや中ねとたる
りもこ中れんてはうのうんハあるうちなるはそと
うるや白宮のうとうもうう
たうふうりたりのうしうへうなうあうはうう
行てうてうたりうしうくうう行や　中将のはうれ
ものうのいうやうくうう行てうやうあと尼
一すはたうや

ゑうちもゝ祝んし祝ゝう　　ゆ碧ろの伝と今ゝ

祝也

かく家よはゝて世中とそひとつまとしつるれんとてかう
しやうれるとともことになくもをほゝまたるかとあ
つまやとゝうゝれ尼るうひろうれくゝさに
ゆ碧の祝と尼ろのこゝろも
家ろとゝ尼ゆゝして伺者ろ尼祝ゝうゝとゝこゝうち
ゝゝひ行かゝうゝゝゝゝゝ九月
ゝゝて尼尼祝祝ゝゝ年ゝゝとんほゝゝゝゝ
ゝひゝゝゝんゝゝも思やゝゝれゝゝゝ　　尼ろ乙也
ひをゝれゝゝゝゝゝゝ
かくゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
者れはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　　尼ろ乙也ゝゝゝゝゝ

ひをゝれくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゆめてまうてさもしとうけたまはりてそあるれ
平ハ也 也谷乃新宮とあのしたまこそうひとものしとうと上
りまうるもとつも或ハ仏の徳とうとうとうみきくの所
ものもあり不覚
食乃人のようれてたくひ多たいたりしためとたるいて
いとものうもちあも
とうあらんとしたそれもうるのたくも　入行
せんとやしもようるのたくも新月ハ新宮れりはもる
きはうとうみきはの波濤不絶波のちうのもわしうれ
きしぬんりきしてはるみちのあうきはきしんとそ
らはとうしやほ　ものはのんやあとうげて食
うあしれ立新さんうれひとうとうきしぬんと
心うきれはうはひとものきて仏られいとたしくのこは

也ハ也やうあんみちれはとみもつくあとはくましく
あんとのはものはちハさもしはへはそうやきうこ
ハてもはさあらん　居乃のんやものとのこと
きれうて世ふあるはうはせふ居多もゆう二ともは板
ものはうあ　あを迎を初瀬手初あるうひもたくと
世ものなを也を浪瀬ハ弱もゆうしうもたくと
乃板のきるしハ今そもあるまうそれと多るまうき
四也　細　初瀬河ある河のへは二年ある板うと強く
みもあいはんん二年ある板花多乃第二年ハ白宮寺と
きいうう仏殿ハあまう所しはうはうはたく年と
板のるうへハうきびゆくへうたも
やきはうきひるまうとうきはは居えみつまて二ともハみも
あハはうんとはは乃へ宜へしとうとうひあて

たるなり　　左云　建久二年の六月廿八日くさのあひだん
　　七月八日　　ゆきの行ちとせれ行也
　　初瀬川　　古　　川の水三ちとなる板はしとも左云　橋了
　　しわてらも　　花　　二年板八自宮莫大ねのちうとと
　　ひ行ちやみもあひたひとつよりて左云の
　　たくあまとにひてあるへし
　　ひはつれあはてわらめ行ちもいとあひ行つさう
　　ゆくしをうり　　ゆきのこやも　　左云八月廿二日二年有と
　　云頌りもうとてくらめ行へしゆきハつ心よくあさ
　　つくれとはつつくとやも
　　あるかの板のもとたちこねもるにくよくへて行る
　　左云　　ゆきいれるへしとも雪ゆきとこねも
　　ちとせすゆ　　ゆきすゆ　　ひとせ行へて行とのうも

細

ゆきをこれすてもあるものくさつよも
ちとあるまあたいくへとくちくつも　　左云
　　ちをと早下ちてちくも
　　見ひくやいくとみるへくちくつ
　　ゆきもんとくあるうて心ちあるかねの尾方
　　つてけるゆきすくへ　　初瀬まうてと西ひやう
　　みとあまとくくけまくちくまれいくとく
　　あくんと所とこの云也
　　ちくいくちくめたり市ゆるみるてあちゆる代
　　おりちるやいつる言女ちや
　　たくあつて事　　左云ちとの出立行とゆゆ碧代行ちる也
　　あくまゆ　　おくくく

といふはまてくるに中ねのほうえあり小僧せうとつて
こさるもいとくるしくもてなしてつまくとさしかけ
さるめると思ふて居る

親方とにたれまてゐやうにてゐる事とさうされと
も今いハてくれんともあるとあのりおんりとて
よそ見さへさつをにまかへくらいはきさるやう
にやるへきなるとと思ふてこもとをとをかるる
と思へて居るとあのくしんすれとも
くるしふまてもなるめさを居つる郎 細かれ尼の河
清基ゐうせ行てといつわやしうもハ有ゐうん
の居へとうるんと思ふ〳〵られそいむとにかりて
〳〵ゐ〳〵基とふさうちられとかたみくうちえね
とのんも

あるとふくせんをさ勢ちりうにてちられそ
かれ尼基を隨ふと思てゐ碁よ千ちをせさをを
るやもこうるけまとんゐ碁れ千ちをも
又てゐをゐあるか 河 千十郎 也
わさうへくうをもせ居ハあんこのけ天尼をなもん
居云初郎ゐとうるうゐ行へうとかれ尼ゐうも
かの所ゐそいとはようりし 扨居云れ事 第尼云
俵部ゐとつゐゐとも
俵部の天ゐやうゐとうんゐこのまを居く 山の
俵部も碁をれ方れも居云ゐりんゐ下ゐとも
くうハわゐもやあ所ゐ居りしを 碁ハ書もゐ
さゐゐみ行ゐもやも
いとをせん大ゐにゐりて行ゐそくゐうまさ居ゐ先

ほうぶけまきしうしやせやせくしをひらくま　　苔れ碁れと

もやせ信部その碁聖大徳ゆとたさしつそそそそう

あもしそそと味尼ゑみくまきびとし行へともつるふ

信部まけ給とやせ碁聖ハ肥前国有浦郡大村人

やせ信名ハ良利出家してハ寛蓮とうるやせ　花　寛蓮

為亭子院御上洛師一亭子法皇山ゆきし給時に信

しうう大和物語りのやせ作り碁のとゆとうて碁

聖とうり　細　橋良利かるやせ物ようかくたり

はわふ信部ちんゆうけまを作し　尼ゑり信部の

石二ッ置やせ

さやせへう碁ゆけまさしやせ行へさうるし　かわ尼組やせ

もやせハ碁聖ゆまうさしうしんとやせ

けるふうしやきうしられ　かわ尼もの碁やとし

のかうとひとと長しうるやせ

ゆさとゆるうわオひうゆのうけねにうのこれとうるにゆう

うさうとやそめてううあと思くゆうあうとそそ

ゆうう　もやのゆやかわ尼年寿たる様とうう

ゆくうやくしうをりてゆうさゆ行ふして　もやれるゆと

かわ尼ちとうるやせ

ロわしくゆうさやもわんゆうゆ作ゆとゆ　もやのう

けくしなさ面りゆううやれゆうゆ作ゆれさび

ゆきとうくうるやせ

夕寿の風の寿と表るうにたひ出る事ゆくて

もやせ　弄　ゆうくゆうゆ人くと思行へしと心ゆと表やせ

ゆゆとゆゆゆうタとゆうひとやとゆうゆ作り寿て見うゆ

もやうう　我へゆうくしきわゆ身度今ハ秋ゆタ

ぶるまふのるいなりひろ神りう春のまんるくみくさ
てハ林乃音はくさかるやとゝとゝとゝるや果下れ心ちる人
〃細行事もふふ可せさるあたれとゝやや
月ち〃ちくはく〃なるはるひ秋文育つる中ねおり〃ると
人のなれわ言を知くあるあるへ〃
行きくてちくはくはうとおるくくはくくはくくはくと
ちねのんや中ねの事ねあを厭や
さゝあまるとはを行〃まるる邪　おれ尼あどうる
ねるるる規や中ねるるるくくはくはくはくはくはくはく
入ねくくくの俊や